

地域で取り組む排尿ケア

泌尿器科副部長 川本 文弥



高齢者へのケアといえば、ADLや認知機能などに注目されがちですが、排泄に関することも実は困っている、悩んでいるという事例が意外とあります。今回のセミナーでは泌尿器科の立場からお話させて頂きました。

夜間頻尿は加齢とともに増加し、その原因は膀胱や前立腺などの問題に限らず、糖尿病やホルモン・様々な薬の影響、睡眠障害など多岐にわたります。夜間に限らず頻尿への対策としては、骨盤底筋体操など手軽な方法から、薬物治療まで色々あります。近年、難治性の場合には、ボツリヌス毒素を用いた新たな治療も行えるようになってきました。

特に高齢者では、身体機能や認知機能の低下、トイレの環境が排泄トラブルの原因になることが多くあります。当院でも積極的な排尿ケア介入を行ってみると、脳卒中などで麻痺を生じた方でも、ADL が改善するだけで、排尿障害の改善につながる事例を多く経験しています。また、トイレ環境が快適になるだけでも排尿状態が改善することもあります。薬以外でもトイレの症状がよくなることもありますのでお試しください。

高齢者への支援について

老人看護専門看護師 梶野 好美



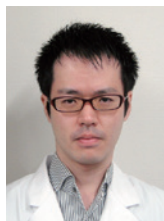
11月14日、秋晴れの中、地域医療従事者スキルアップセミナーを開催し、地域の医師、看護師、介護支援専門員など多数参加していただきました。

私は「高齢者への支援について」をテーマに、高齢者の身体的・精神的変化の特徴や、高齢者の発達段階などをお話させていただきました。高齢者の発達段階については、エリクソンの発達理論に触れながら、高齢者が人生史を語ることで自分自身の人生を受け入れるようになり、死への準備をしていることなど事例を盛り込んでお話させていただきました。

参加者から「改めて高齢者について知ることができた」「まずは自分の親に優しくしようと思った」などの感想があり、お話したことが伝わったことを嬉しく思いました。

高齢者が看護や介護が必要な状態になっても、「いい人生だった」と感じていただけるように関わられたら素敵だと思います。そのために、高齢者の声に耳を傾けること、意思決定が可能なおきから高齢者の考える最期を聴いていくことが重要だと思います。地域の皆さんと共に高齢者を支えていきたいと思いますので、今後ともよろしく願います。

新任医師紹介



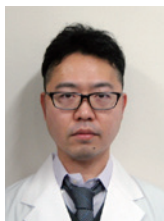
脳神経内科医師

たなか けんいちろう

田中 健一郎

(R3.1.1)

平成20年鳥取大学卒の田中健一郎と申します。このたび地元の松江市に戻ってまいりました。脳神経内科の中でも脳卒中を専門としており、脳神経超音波や脳血管内治療にも携わっております。よろしく願います。



脳神経外科医師

せやま ごう

瀬山 剛

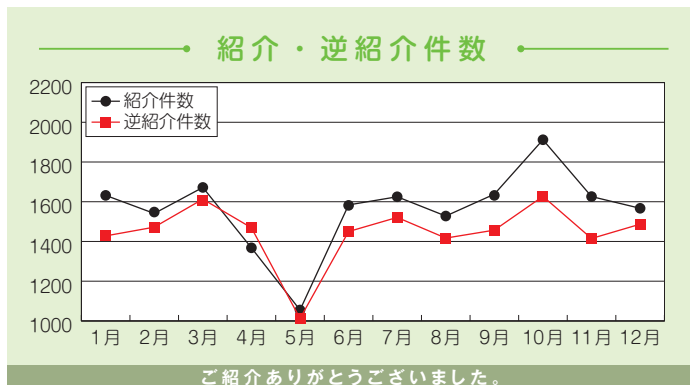
(R3.1.1(R3.2.28まで))

本年1月より脳神経外科に赴任いたしました瀬山剛です。これまで広島、愛媛で診療をしていましたが、島根では初めてです。松江の医療に少しでも貢献できるよう頑張ります。どうぞよろしく願います。

退 職 者

● 令和2年12月31日付

脳神経内科医師	徳 田 直 希
脳神経外科医師	米 澤 潮



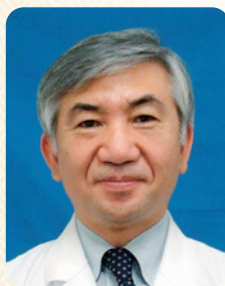
日本赤十字社

松江赤十字病院 地域医療連携課

れんけいだより

vol.48
2021年1月号

新年のご挨拶



院長

大居 慎治

明けましておめでとうございます。

中国武漢で始まった感染症は、あっという間にパンデミックになってしまいました。当院でも昨年二月から災害時並みの対策本部を立ち上げ、準備してまいりました。誰も経験したことのない事態で、情報を集め、知恵を出し合って、話し合いの上、協力して、試行錯誤しながら、保健所や県の担当者、医師会、他の病院とも十分な連絡をとりながら、ことに当たってきました。

四月末に島根県内でも発生し、県内の感染症指定病院及び協力病院で受け入れが始まりました。年末までに県内で約二百名の患者さんが発生しました。今のところ感染源がほぼ特定できており、松江市内で蔓延している印象はありませんが、予断を許さない状況になっております。当院でも受け入れ病床の確保、PCR など検査体制の整備、休日にも対応する発熱外来の設置を行って万全の態勢を敷いております。発熱外来は一般の患者さんと接しないように別館で診療

しております。

松江市医師会でも検査センターを設置し、PCR 並みの感度の抗原定量検査が行われており、県内の他の地域をリードし、実績もあり心強い限りです。松江市医師会の泉会長を始め関係の諸先生方のご英断に敬意を表します。

当院は地域の急性期病院として三次救急を始め、周産期医療や、がん診療、その他の医療など通常の重要な医療を担っております。これらの通常診療への影響を受けないようにいたします。院内感染が起こらないように最大限の注意を払い、来院される患者さんに安心して治療を受けていただけるようにしております。当面は入院患者さんの面会は禁止とさせていただき、外来は必ずマスク着用、手指消毒と体温測定、問診票の記入をお願いをしております。

新型コロナウイルス感染症が今後どうなっていくのかわからない状況ですが、ワクチン接種も始まりそうで希望も見えてきております。地域の医療従事者、介護従事者がみんなで協力して頑張りましょう。

早くこの疫病が退散し、この一年が良い年になるよう願っております。



松江赤十字病院 地域医療連携課

〒690-8506 松江市母衣町200番地

TEL 0852-32-7813 FAX 0852-27-9261



第14回 地域医療従事者スキルアップセミナー

令和2年11月14日（土） 松江赤十字病院

住み慣れた家で最期を迎えたい

よだか診療所
看護師 谷口 裕子



当院は在宅診療として昨年11月に開院。診療エリアは、安来市、米子市、境港市、西伯郡の一部。

患者は70歳代 女性、関西から移住後慣れない土地で夫と2人きりの生活。初めての在宅医療、介入当初は警戒心を持っておられ介護サービス導入は拒否。介入1週間後、ストーマ粘膜からの出血により救急搬送。退院時夫より「もう入院なんかさせへん」と発言あり、介護サービス導入開始。訪看と協力し定期的な輸血、腹水穿刺など実施。在宅スタッフ間では、密な連携を行った。夫は連絡帳に妻には言えな

い思いを綴っていた。介入から2ヶ月後、旅立たれた。その後お便りを送ると、夫から「毎日涙が止まりません。」と返信あり。

今回、半年ぶりに夫の元を訪問。後悔があると話され、毎日の仏壇供養を生きる支えとしていた。

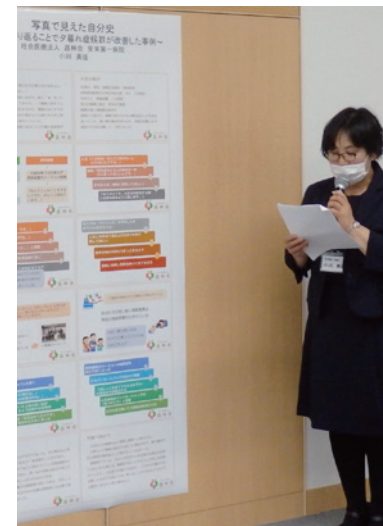
密な連携をとり在宅チームとして夫婦を支えた結果、最期まで住み慣れた場所で、大切な人と過ごしたいという強い思いを叶えることができた。

今回のセミナーに参加し、地域医療に携わる各機関の取り組みを知り、当院での在宅医療に活かしたい。

写真で見えた自分史

～人生を振り返ることで夕暮れ症候群が改善した事例～

安来第一病院
看護師 小川 美佳



骨折で入院されたAさんのケースを発表させて頂きました。慢性的な尿閉がわかり、膀胱留置カテーテルを留置した頃からAさんは夕方になると「自分はもうダメです。」と涙を流されるようになりました。Aさんに生きてきた誇りを取り戻してほしいと考え、ご家族に記念の写真を依頼したところ、ご家族のアルバムが届きました。Aさんと写真を見ながら話をすることで徐々に「もうダメです。」と涙を流されることがなくなりました。膀胱留置カテーテル留置時には「一生入れてお

かないといけませんか。」と涙を流し、自分で抜いたり、バッグを引きずって歩かれましたが、尿の処理をスタッフに依頼したり、バッグを自分と一緒に移動できるようになりました。

「高齢者へのケア」というテーマを頂き、日々のケアを振り返ることができました。他施設の取り組みを知ることでも、今後の参考にさせて頂きたいと思います。コロナ禍にあって大変貴重な機会を設けて頂きました、松江赤十字病院様のご尽力に心より感謝申し上げます。

腰部脊柱管狭窄症に対する ノルディックポールの有効性

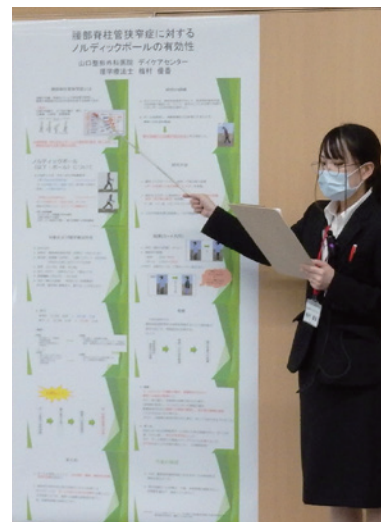
山口整形デイケアセンター
理学療法士 梅村 優香

「腰部脊柱管狭窄症に対するノルディックポールの有効性」についての発表をさせて頂きました。当デイケアは、整形外科疾患が大半を占めており、中でも腰部脊柱管狭窄症の患者様が多く見られます。そこで、腰部脊柱管狭窄症の症状の1つである間欠性跛行に対して、ポールを使用し、体幹前傾位を促しながらの歩行を指導する事で、間欠性跛行の改善が見込めると考え、その効果を検証しました。結果は、立位姿勢・腰痛・連続歩行距離・歩容の改善が見られましたが、間欠性跛行

に対する結果には至らず、腰部脊柱管狭窄症に対するポールの有効性は検証出来ませんでした。間欠性跛行への効果は、今後、歩容指導を徹底し症例数を重ねて検証していきたいと思います。

ポスター発表は今回が初めてで、とても緊張しましたが、事前に打ち合わせをしていただき、安心して発表する事が出来ました。

また他事業所の様々な取り組みを聞かせて頂き、様々な視点から学ぶ事が出来、とても勉強になりました。貴重な機会を頂き、ありがとうございました。



コロナ禍におけるセンターの活動について

松江市社会福祉協議会
在宅医療・介護連携支援センター
角 知子

当センターでは、医療と介護の関係者の皆様の連携を深めるための活動をしている関係で、表題について発表させて頂きました。

コロナ禍で当初情報が少ない中、まずは「正しい情報を共有しよう」と、「受診の方法」、「口腔ケア」、「消毒の種類や使い方」等について医師会、歯科医師会、薬剤師会からご協力頂き、広報誌特集号を発行しました。また、ホームページにはコロナ関連の情報（市内病院の面会一覧、マニュアル・動画等）を集め、特設ページを作りました。

そして地域の高齢者の感染発生時に備え、皆様が心配されていることを行政に伝え、感染症対策研修をYouTube動画で配信しました。

コロナ禍で今年は研修開催が見送られる中、院長先生より「地域との連携を大事にしたい」という想いで、このセミナーを開催していただいたとのこと。皆様が大変な思いをされながらも、通常の業務にも熱心に取り組まれている報告をおききすることができ、大変参考になりました。ありがとうございました。

